

平成 25 年 9 月13日

路線バスでの高齢者の転倒、骨折事故が多発!!

路線バスの重大事故等の分析及び利用に関するアンケートの調査結果より

平成 21 年 9 月の消費者安全法の施行以降、平成 25 年 7 月末までに、乗合バス（以下「路線バス」といいます。）の車内事故等であって、骨折などのけがが生じているものが 273 件通知されており、その 98.9%が重大事故等^(注1)となっています。これらにつき分析したところ、路線バスが動き出すときや停車するときなどに特に事故が多く起きており、60 歳以上のけがが 78% (213 件)であることが分かりました。

さらに、路線バスでの転倒経験や利用者の意識について把握するため、40 歳代から 70 歳代までを対象にアンケート調査を行ったところ、車内等での転倒で骨折等の事故が起きていることを知っている人は 27%でした。

消費者庁は、このような状況をふまえ、消費者への注意喚起を行うとともに^(注2)、公益社団法人日本バス協会に継続して事故防止に積極的に取り組むよう、各バス会社への周知を要請しましたのでお知らせします。

(注1) 重大事故等とは消費者安全法において、治療期間が 30 日以上けがなどを伴う事故等をいう。

(注2) 「路線バスでの転倒事故にご注意ください！」http://www.caa.go.jp/safety/pdf/130913kouhyou_1_1.pdf

1. 消費者庁に集約された路線バスに関する消費者事故等の件数と事例

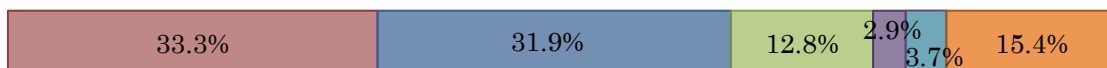
(1) 路線バスに関する事故情報の件数

平成 25 年 7 月末日までに通知された 273 件のうち、重大事故等（骨折・裂傷等）が 270 件、非重大事故等が 3 件となっています。

また、事故情報の 78.0% (213 件) で 60 歳以上がけが【図 1】、86.4% (236 件) で骨折【図 2】。64.1% (175 件) で女性がけがを負っています【図 3】。

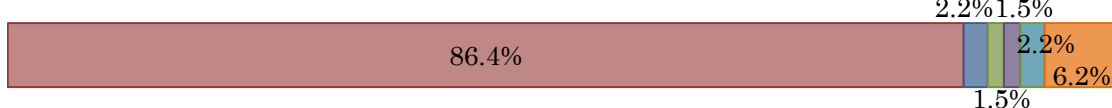
【図 1】 事故の被害者年齢別 (n=273)

■ 80歳代以上 ■ 70歳代 ■ 60歳代 ■ 50歳代 ■ 40歳代以下 ■ 不明



【図 2】 事故によるのケガ内容の内訳 (n=273)

■ 骨折 ■ 擦過症・捻挫・打撲 ■ 神経損傷 ■ 頭蓋損傷 ■ その他 ■ 不明



【図 3】 事故の被害者性別 (n=273)

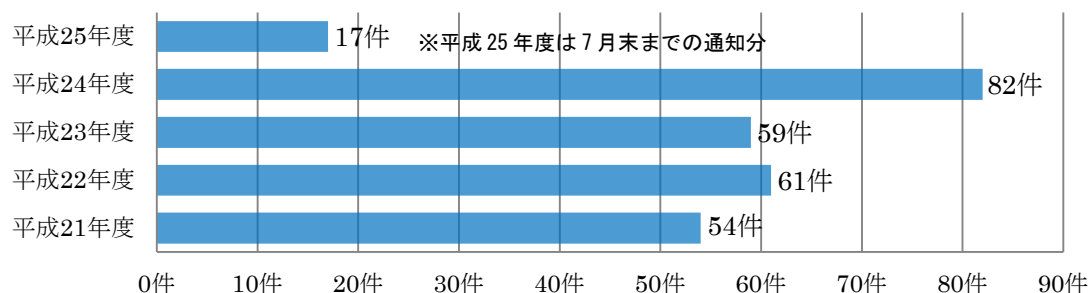
■ 女性 ■ 男性 ■ 不明



(2) 発生年度別

路線バスでの事故 273 件を発生年度別にみると、平成 24 年度中に発生した事故が 82 件と、平成 23 年度に比べて 23 件増加しています【図 4】。

【図 4】路線バスでの事故の年度別通知件数 (n=273)



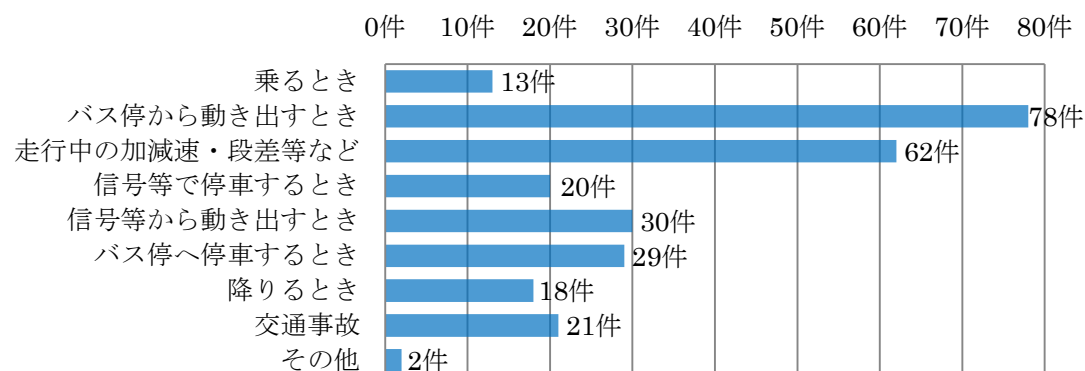
(3) 事故内容別

事故情報 273 件のうち、けがをした時のバスの状況については、「バス停から動き出すとき」の事故が最も多く、発進時に着席しようとした利用者の転倒が目立ちます【図 5】。なかには、高齢者が完全に着席する前にバスが発車した場合も見られます。なお、「バス停へ停止するとき」の事故では、停車する前に席を立ったために転倒したケースが目立ちます。

走行中の事故では、急ブレーキやいったん減速してすぐに加速した際の転倒が多く見られ、「信号等から動き出すとき」の事故では、赤信号等で停車している間に座席を移動しようとした利用者が転倒したものが目立ちます。

乗り降りの際にも、バランスを崩したことによる転倒事故が発生しており、バスが停まっても油断してはならないことがわかります。

【図 5】けがをした時のバスの状況 (n=273)



(4) 事故事例

重大事故等として寄せられた事故事例には次のようなものがあります。

●バスに乗るとき、降りるときの事故

<事例 1>

バスに乗ろうとしたところ、バランスを崩して車外に転落し、道路の縁石に頭部を打って、外傷性くも膜下出血になった。

(平成 24 年 12 月発生 女性 70 歳代)

〈事例2〉

バス停で降車しようとした乗客が全て降りたと思い、扉を閉めたところ、降車中の乗客が転倒し、腰椎を骨折した。（平成25年2月発生 女性60歳代）

●バス停から動き出すときの事故

〈事例3〉

杖をつき荷物を持ってバスに乗った。席に座るまで時間がかかった。席の前にたどり着いたところで発車したため転倒して大腿骨を骨折した。

（平成25年3月発生 女性80歳代）

●走行中の事故

〈事例4〉

バスが赤信号で減速していた。青信号になってバスが加速したため、転倒し、大腿骨を骨折した。

（平成24年9月発生 女性80歳代）

〈事例5〉

バスの前方を走る乗用車が急停車したため急ブレーキがかかった。手すりにつかまって立っていたが、転倒し、腰椎を骨折した。

（平成25年3月発生 女性70歳代）

●信号等から動き出すときの事故

〈事例6〉

運転手の後ろの席に座っていた。信号が赤だったので、両替しようとして中腰で手を伸ばしたところ、発進したため転倒し、左肘を骨折した。

（平成25年3月発生 女性50歳代）

●バス停へ停車するときの事故

〈事例7〉

バス停が近づいてきたので、降車するために走行中に立ち上がったところ、ブレーキで転倒し、腰椎を骨折した。（平成24年12月発生 女性70歳代）



2. 路線バスの利用に関するアンケートの結果

消費者庁では平成 25 年 6 月に路線バスでの転倒経験や、意識等について調べるため、路線バスを利用している 40 歳代から 70 歳代までの各年代男女、各 500 人以上(計 4,146 名)にインターネット調査を行いました(別紙参照)。

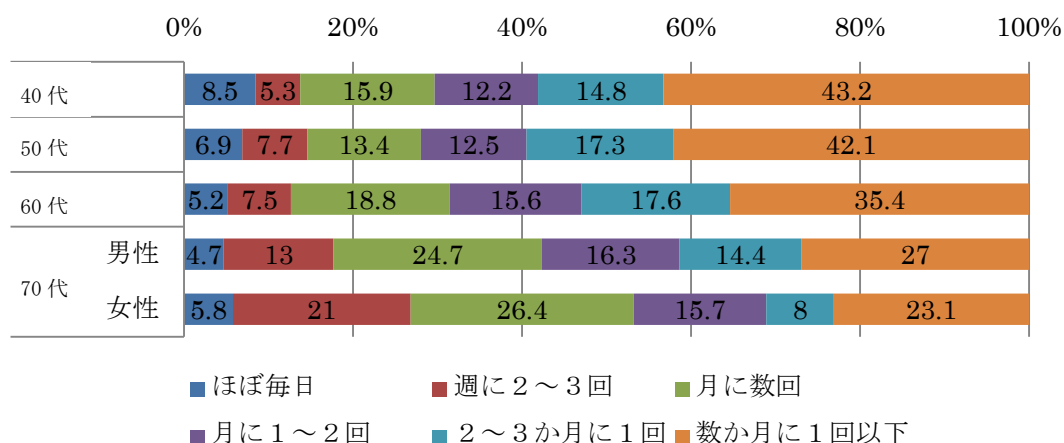
(1) 路線バスは高齢者の生活の足

路線バスの利用状況について「毎日」、「週に 2～3 回」又は「月に数回(3 回以上)」のいずれかに回答した人は年代が高くなるにつれ増える傾向にあり、特に 70 歳代の女性では 53.2%となっています【図 6】。

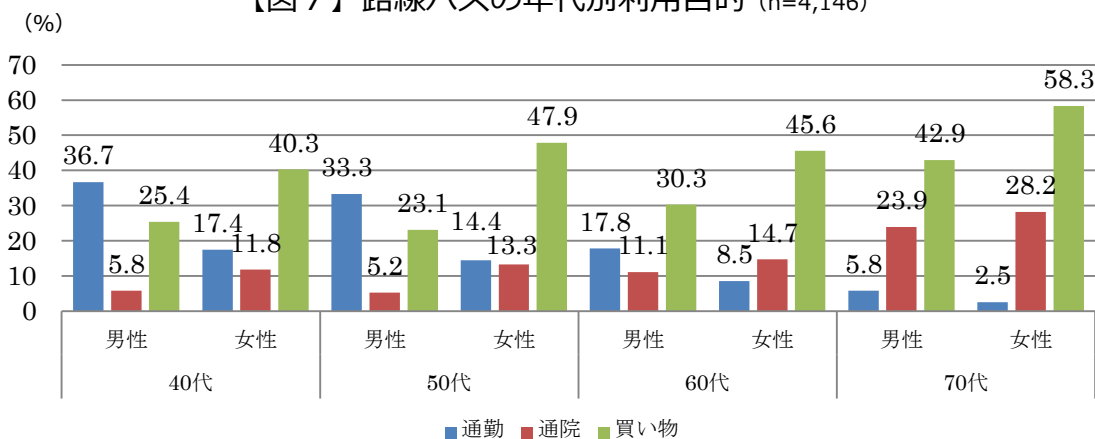
利用目的を見ると、女性で「買物」が 40%を超え、特に 70 歳代女性では 58.3%となっています。「通院」は 70 歳代の男性で 23.9%、女性で 28.2%と多く、男性で 50 歳代の約 5 倍、女性で約 2 倍となっています【図 7】。

「買物」又は「通院」のために「毎日」、「週 2～3 回」又は「月に数回」利用すると回答した人の 46.2%が 70 歳代となっており、路線バスが高齢者にとって普段の生活の足として利用されていることが分かります。

【図 6】路線バスの年代別利用頻度 (n=4,146)



【図 7】路線バスの年代別利用目的 (n=4,146)



(2) 重大事故が起きていることを知らない

路線バスで利用者に重大事故が起きていることを「知っている」と回答した人は27%と、多くの方がこのような事故が起きていることを知りませんでした。転倒を経験した人でも知っていたのは38.2%しかおらず、さらに、70歳以上の転倒経験者であっても知っていた人は32人中17人(53.1%)にとどまっています。

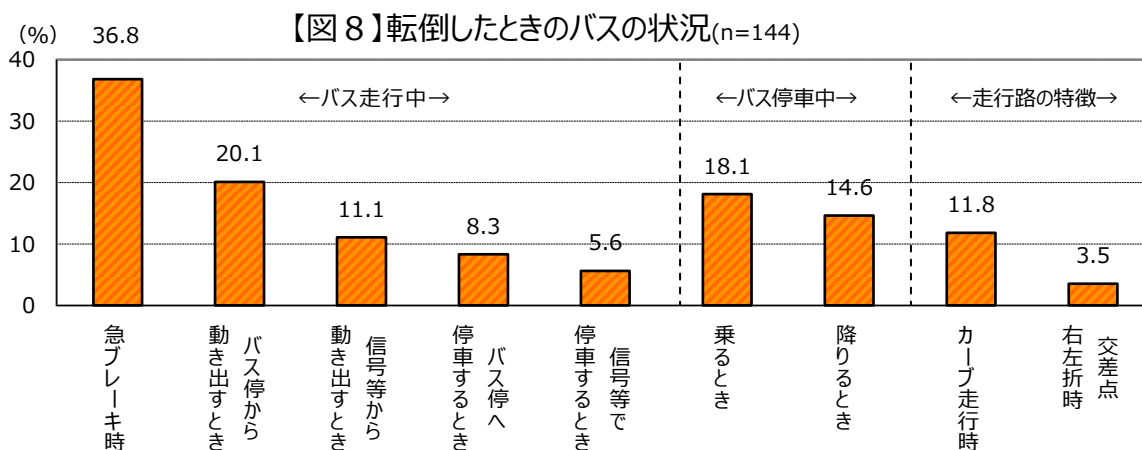
バス利用者自身が積極的に安全確保に努めるよう促すため、走行中の一層の啓発が必要と考えられます。

(3) 急ブレーキやバス停から動き出すときに転倒

調査対象のうち144人に転んだ経験がありました。「急ブレーキ時」による転倒が最も多く、次に「バス停から動き出すとき」、「信号等から動き出すとき」、「バス停への停車するとき」、「信号等で停車するとき」となっています【図8】。

バス停で「乗るとき」の転倒は70歳代の男性に、「降りるとき」の転倒は50歳以上の女性に多く見られます。「週に2～3回」又は「月に数回」通院に利用すると回答した70歳代の女性では86人中11人(12.8%)に転倒経験があり、割合が高くなっています。

転んだ際にバスが走行していた道路の特徴は「カーブ走行時」が多く、「曲がり角」の約3倍となっています。

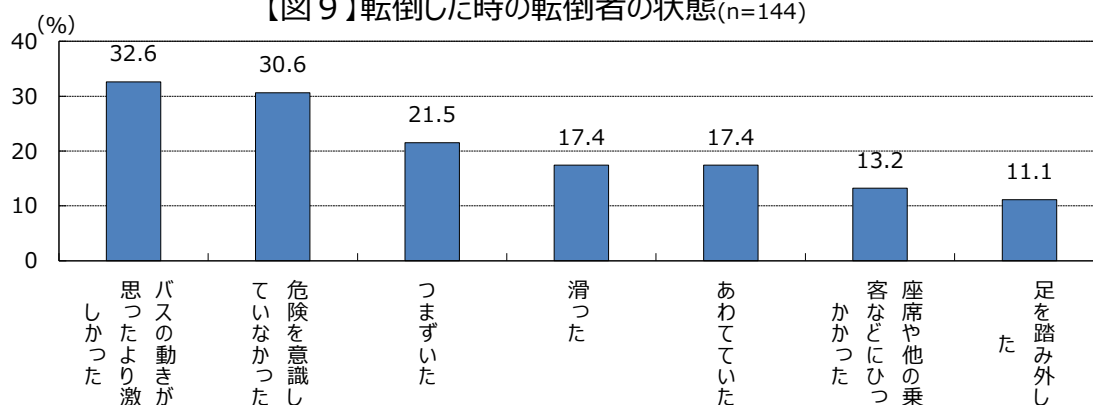


(4) バスの動きを予想していなかった人が多い

転倒時の状態については「バスの動きが思ったより激しかった」、「危険を意識していなかった」との回答がいずれも30%を超えており【図9】、「急ブレーキ時」や、走行中に転倒したケースが多く見られます。また、「危険を意識していなかった」と回答した人では、バスが動いていない乗り降りの際の転倒が目立っています。

急ブレーキ時には、利用者に想像以上に強い力がかかります。また、「カーブ走行時」や乗り降りの際などでも転倒していることから、バス利用者の危機意識が、実際のバスの動きや利用者自身の身体の動きと合っていないために転倒していると考えられます。

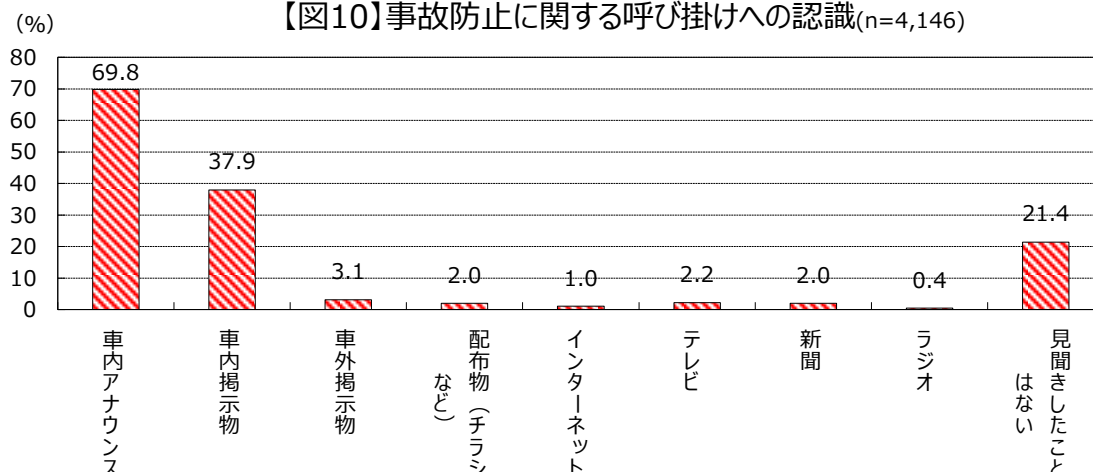
【図9】転倒した時の転倒者の状態(n=144)



(5) 事故防止の呼び掛けは車内アナウンスが効果的

事故防止の呼び掛けは、「車内アナウンス」が 69.8%、「車内掲示物」が 37.9%で認識されていました。その一方、「車内アナウンス」、「車内掲示物」等のいずれも見聞きしたことはないとの回答は 21.4%でした【図10】。

【図10】事故防止に関する呼び掛けへの認識(n=4,146)



なお、転倒を経験した人では 86.1%が、いずれかの事故防止の呼び掛けを認識しており、認識率が高くなっていることがわかります。特に 60 歳代以上で転倒によりけがをしたと回答した人においては、26 人中 24 人が認識しています。

バスの利用者は車内で次に停まるバス停の案内などのアナウンスを聞こうと意識しています。録音メッセージの再生だけでなく、車内点検のうえ、状況に応じた細かなアナウンスを行うことが運行中に注意喚起を行う上で非常に有効と考えられます。

本件に関する問合せ先

消費者庁消費者安全課 河岡、須藤、坂東

TEL : 03(3507)9137 (直通)

FAX : 03(3507)9290

路線バスの利用時の事故に関する調査

平成 25 年 9 月
消 費 者 庁

1. 調査内容

(1) 調査目的

路線バスに関する消費者事故等の通知において、けがが多く見られる年代を中心に、消費者に路線バス利用時の事故等に関するアンケート調査を実施。路線バス利用者の利用目的、転倒経験、および利用時の意識について把握し、路線バスでの事故防止のため利用者、バス事業者に向けた注意喚起に資するものとする。

(2) 調査方法

インターネット調査

(3) 調査時期

平成 25 年 6 月

(4) 調査対象条件、総サンプル数

プレ調査として 2012 年 4 月以降の路線バスの利用の有無と年齢、性別を調査。路線バスを利用したと回答のあった 40～70 歳代の男女、各年代各性別あたり 500 人以上、計 4,146 名を調査対象とした。

(5) 回答者属性

回答地域：全国

平均年齢：58.8 歳

調査対象 4,146 人の年齢構成内訳

40 歳代：1,038 人
50 歳代：1,039 人
60 歳代：1,039 人
70 歳代：1,030 人

男女比：男性 50.1%、女性 49.9%

2. 調査結果

Q 1 あなたは、過去約1年間（2012年4月以降）で、路線バスをどの程度使用されましたか。以下の選択肢のうち、あなたの状況に最も近いものを1つお答えください。※路線バスとはあらかじめ設定された経路を定期的に運行するバスを指します。

○ほぼ毎日	267人（6.4%）
○週に2～3回	387人（9.3%）
○月に数回	763人（18.4%）
○月に1～2回	584人（14.1%）
○2～3か月に1回	632人（15.2%）
○数か月に1回以下	1,513人（36.5%）

Q 2 あなたが路線バスに乗車する目的を教えてください。（回答はいくつでも）

○通勤	709人（17.1%）
○通院	589人（14.2%）
○買い物	1,625人（39.2%）
○行楽	1,357人（32.7%）
○（親類・友人などの）訪問	902人（21.8%）
○その他	661人（15.9%）

Q 3 あなたの性別をお答えください。（回答は1つ）

○男性	2,076人（50.1%）
○女性	2,070人（49.9%）

Q 4 あなたの年齢をお答えください。

（回答は半角数字で入力）

Q 5 あなたが普段利用される路線バスが通る道の、特徴を教えてください。

（回答はいくつでも）

○交差点や曲がり角が多い	1,335人（32.2%）
○カーブが多い	502人（12.1%）
○坂が多い	708人（17.1%）
○平坦な道が多い	1,795人（43.3%）
○信号が多い	2,190人（52.8%）
○上記には当てはまらない	463人（11.2%）

Q 6 あなたは普段バスに乗るとき、主にどの方法で運賃を支払っていますか。
(回答は1つ)

○現金	1,334人 (32.2%)
○回数券	238人 (5.7%)
○磁気カード・ICカード	2,204人 (53.2%)
○バス乗務員に提示するのみのもの	247人 (6.0%)
○料金を支払うタイプのバスには 全く乗っていない(無料循環バスなど)	22人 (0.5%)
○その他	101人 (2.4%)

Q 7 あなたは、バスの走行中に車内を移動することはありますか。
ある場合、大体どのような目的で移動しますか。あてはまるものを全てお
知らせください。なお、バスが止まっている間になさることは除いてお考え
ください。(回答はいくつでも)

○両替するため	432人 (10.4%)
○降車時の支払いのため	374人 (9.0%)
○降車ボタンを押すため	136人 (3.3%)
○降車のため	1,200人 (28.9%)
○詰めるため	479人 (11.6%)
○着席や、つり革や手すりにつかまるため	706人 (17.0%)
○好みの席に移るため	363人 (8.8%)
○路線図や掲示物を見るため	172人 (4.1%)
○その他	24人 (0.6%)
○基本的に走行中に移動することはない	2,212人 (53.4%)

Q 8 あなたが普段路線バスを利用する際に気をつけていることはありますか。
以下の中であなたのお気持ちにあてはまるものを全てお答えください。
(回答はいくつでも)

○素早く乗るようにする	1,287人 (31.0%)
○降車時に素早く運賃を支払う	1,483人 (35.8%)
○素早く降車できるようにする	1,744人 (42.1%)
○なるべく着席したり、つり革や 手すりにつかまったりする	2,310人 (55.7%)
○優先座席に出来るだけ座らない ／席を必要としている人に席を譲る	1,460人 (35.2%)
○走行中に移動しない	2,222人 (53.6%)
○その他	51人 (1.2%)
○特に気をつけていることはない	339人 (8.2%)

ここからは、路線バス内でのできごとについてお伺いしていきます。

Q 9 あなたは路線バスで、「利用者に重大事故(主に高齢者が転倒した際に骨折等の重症で30日以上の治療)が起きている」ということをご存知でしたか。

(回答は1つ)

○知っていた	1,118人(27.0%)
○知らなかった	3,028人(73.0%)

Q 10 あなたは、これまで路線バス利用時に転びそうになるなど、危険を感じたことはありますか。(回答は1つ)

○毎回感じる	30人(0.7%)
○それなりの頻度で感じる	322人(7.8%)
○めったにないがたまに感じる	1,838人(44.3%)
○そういったことはない	1,956人(47.2%)

さきほど、路線バスで「転びそうになったり、危険を感じたことがある」とお答えいただいた方にお伺いします。

Q 11 あなたご自身が「転びそうになったり、危険を感じた」のは、どのような状況でしたか。あてはまるものを全てお答えください。

(回答はいくつでも)

<バスの状況>

○停車時	355人(16.2%)
○発進時(バス停)	502人(22.9%)
○発進時(信号など、バス停以外で)	365人(16.7%)
○減速時(バス停)	209人(9.5%)
○減速時(信号など、バス停以外で)	294人(13.4%)
○走行中加速時	207人(9.5%)
○急ブレーキ時	1,412人(64.5%)
○車線変更時	72人(3.3%)
○カーブ走行時	522人(23.8%)
○交差点右左折時	241人(11.0%)
○坂道	44人(2.0%)
○平坦な道	20人(0.9%)
○その他、走行中	60人(2.7%)
○ドアの開閉時(挟まれる)	31人(1.4%)

<あなたの行動>

○乗車中	320人(14.6%)
○降車中	159人(7.3%)

○着席中	156人 (7.1%)
○走行中つり革や手すりにつかまって立っていた時	962人 (43.9%)
○走行中つり革や手すりにつかまらないうで立っていた時	544人 (25.3%)
○走行中に着席のためもしくはつり革や手すり等につかまるための移動中	314人 (14.3%)
○走行中に降車のための移動中	310人 (14.2%)
○走行中に両替のための移動中	85人 (3.9%)
○走行中の車内移動時 (降車、着席、両替のため以外)	98人 (4.5%)
○停車中の車内移動時	30人 (1.4%)

<上記にあてはまらない状況>

○その他	26人 (1.2%)
------	------------

Q12 あなたご自身が「転びそうになったり、危険を感じた」際の、あなたの状態をお知らせください。(回答はいくつでも)

<あなたの動作>

○つまずいた	110人 (5.0%)
○バランスを崩した	1,690人 (77.2%)
○滑った	91人 (4.2%)
○足を踏み外した	42人 (1.9%)
○座席や他の乗客などにひっかかった	226人 (10.3%)
○他の乗客をよけた	129人 (5.9%)
○他の乗客に押された	400人 (18.3%)

<意識、身体などの状態>

○あわてていた	137人 (6.3%)
○他のことに気をとられていた	252人 (11.5%)
○荷物を持ちすぎていた	172人 (7.9%)
○目測を誤った	92人 (4.2%)
○体調が悪かった	48人 (2.2%)
○無茶をした・できると思った	23人 (1.1%)
○危険を意識していなかった	635人 (29.0%)
○バスの動きが思ったより激しかった	1,058人 (48.3%)
○子どもを連れていた	40人 (1.8%)
○お酒で酔っていた	12人 (0.5%)

<上記にあてはまらない状況>

○その他	48人 (2.2%)
------	------------

引き続き、バスでの状況についてお伺いします。

Q 1 3 それでは、路線バス利用時に実際に転ぶなどしたことはありますか。

(回答は1つ)

○実際に転ぶなどしたことがある	144 人 (6.6%)
○そういったことはない	2,046 人 (93.4%)

さきほど、路線バス利用時に「実際に転ぶなどしたことがある」とお答えいただいた方にお伺いします。

Q 1 4 あなたご自身が「実際に転ぶなどした」のは、どのような状況でしたか。

当てはまるものを全てお答えください。(回答はいくつでも)

<バスの状況>

○停車時	29 人 (20.1%)
○発進時 (バス停)	29 人 (20.1%)
○発進時 (信号など、バス停以外で)	16 人 (11.1%)
○減速時 (バス停)	12 人 (8.3%)
○減速時 (信号など、バス停以外で)	8 人 (5.6%)
○走行中加速時	9 人 (6.3%)
○急ブレーキ時	53 人 (36.8%)
○車線変更時	3 人 (2.1%)
○カーブ走行時	17 人 (11.8%)
○交差点右左折時	5 人 (3.5%)
○坂道	3 人 (2.1%)
○平坦な道	5 人 (3.5%)
○その他、走行中	6 人 (4.2%)
○ドアの開閉時 (挟まれる)	1 人 (0.7%)

<あなたの行動>

○乗車中	26 人 (18.1%)
○降車中	21 人 (14.6%)
○着席中	7 人 (4.9%)
○走行中つり革や手すりにつかまって立っていた時	19 人 (13.2%)
○走行中つり革や手すりにつかまらないで立っていた時	22 人 (15.3%)
○走行中に着席のためもしくはつり革や手すり等につかまるための移動中	18 人 (12.5%)
○走行中に降車のための移動中	19 人 (13.2%)
○走行中に両替のための移動中	7 人 (4.9%)
○走行中の車内移動時	

(降車、着席、両替のため以外)	4人 (2.8%)
○停車中の車内移動時	6人 (4.2%)

<上記にあてはまらない状況>

○その他	3人 (2.1%)
------	-----------

Q15 「実際に転ぶなどした」際の、あなたの状態をお知らせください。

(回答はいくつでも)

<あなたの動作>

○つまずいた	31人 (21.5%)
○バランスを崩した	83人 (57.6%)
○滑った	25人 (17.4%)
○足を踏み外した	16人 (11.1%)
○座席や他の乗客などにひっかかった	19人 (13.2%)
○他の乗客をよけた	10人 (6.9%)
○他の乗客に押された	15人 (10.4%)

<意識、身体などの状態>

○あわてていた	25人 (17.4%)
○他のことに気をとられていた	13人 (9.0%)
○荷物を持ちすぎていた	8人 (5.6%)
○目測を誤った	10人 (6.9%)
○体調が悪かった	6人 (4.2%)
○無茶をした・できると思った	2人 (1.4%)
○危険を意識していなかった	44人 (30.6%)
○バスの動きが思ったより激しかった	47人 (32.6%)
○子どもを連れていた	4人 (2.8%)
○お酒で酔っていた	0人 (0.0%)

<上記にあてはまらない状況>

○その他	4人 (2.8%)
------	-----------

Q16 あなたはそのとき怪我などをしましたか。医者にかからなかったものも含め、あてはまるものをお答えください。(回答はいくつでも)

○すり傷	30人 (20.8%)
○裂傷	4人 (2.8%)
○打ち身・打撲	52人 (36.1%)
○捻挫	6人 (4.2%)
○骨折	4人 (2.8%)
○失神	0人 (0.0%)
○脳震盪	0人 (0.0%)

○その他	1人 (0.7%)
○怪我はしていない	72人 (50.0%)

Q 17 あなたが路線バス利用時に、周りの方が転んだり、ドアに挟まれたりといった危ない目に遭うのを見たことがありますか。また、ある場合、その方はだいたいどのくらいの年齢でしたか。（回答はいくつでも）

○10歳代以下くらい	62人 (1.5%)
○10歳代くらい	48人 (1.2%)
○20～30歳代くらい	82人 (2.0%)
○40～50歳代くらい	135人 (3.3%)
○60歳代くらい	319人 (7.7%)
○70歳代以上くらい	677人 (16.3%)
○見たことはない／覚えていない	3,065人 (73.9%)

さきほど、バスの中でころんだりされた方を見たことがあるとお答えの方にお伺いします。

Q 18 それはどのような状況でしたか。（回答はいくつでも）

<バスの状況>

○停車時	139人 (12.9%)
○発進時（バス停）	294人 (27.2%)
○発進時（信号など、バス停以外で）	161人 (14.9%)
○減速時（バス停）	108人 (10.0%)
○減速時（信号など、バス停以外で）	95人 (8.8%)
○走行中加速時	99人 (9.2%)
○急ブレーキ時	446人 (41.3%)
○車線変更時	19人 (1.8%)
○カーブ走行時	146人 (13.5%)
○交差点右左折時	69人 (6.4%)
○坂道	6人 (0.6%)
○平坦な道	10人 (0.9%)
○その他、走行中	40人 (3.7%)
○ドアの開閉時（挟まれる）	51人 (4.7%)

<転倒しそうになった者、または転倒者の行動>

○乗車中	179人 (16.6%)
○降車中	177人 (16.4%)
○着席中	56人 (5.2%)
○走行中つり革や手すりにつかまって立っていた時	180人 (16.7%)

○走行中つり革や手すりにつかまら ないで立っていた時	248 人 (22.9%)
○走行中の車内移動時	334 人 (30.9%)
○停車中の車内移動時	48 人 (4.4%)

<上記にあてはまらない状況>

○その他	23 人 (2.1%)
------	-------------

Q 19 事業者や行政による路線バスの車内事故防止のポスター、注意書き、アナウンスなどの取組を見聞きしたことはありますか。

覚えていらっしゃるものを全てお知らせください。(回答はいくつでも)

○車内アナウンス	2,893 人 (69.8%)
○車内掲示物	1,572 人 (37.9%)
○車外掲示物	127 人 (3.1%)
○配布物 (チラシなど)	82 人 (2.0%)
○インターネット	42 人 (1.0%)
○テレビ	92 人 (2.2%)
○新聞	84 人 (2.0%)
○ラジオ	18 人 (0.4%)
○その他	11 人 (0.3%)
○見聞きしたことはない	889 人 (21.4%)